

# 最近の河川事業に関する動向

令和4年4月25日

国土交通省 中国地方整備局

# ハード対策の取組状況

- 千代川は、平成19年5月に策定した「千代川水系河川整備計画」に従い、整備期間20年間（平成19年～令和8年）を目標に河川整備を進めてきた。千代川では、現在、美成地区の河床掘削を実施しており、令和4年を目途に整備が完了する予定となっている。
- 従来のハード対策とは別に「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、令和2年度を目途に氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策（堤防の天端舗装）を実施した。（一部、質的整備重複箇所除く）

## 危機管理型ハード対策 堤防の天端舗装



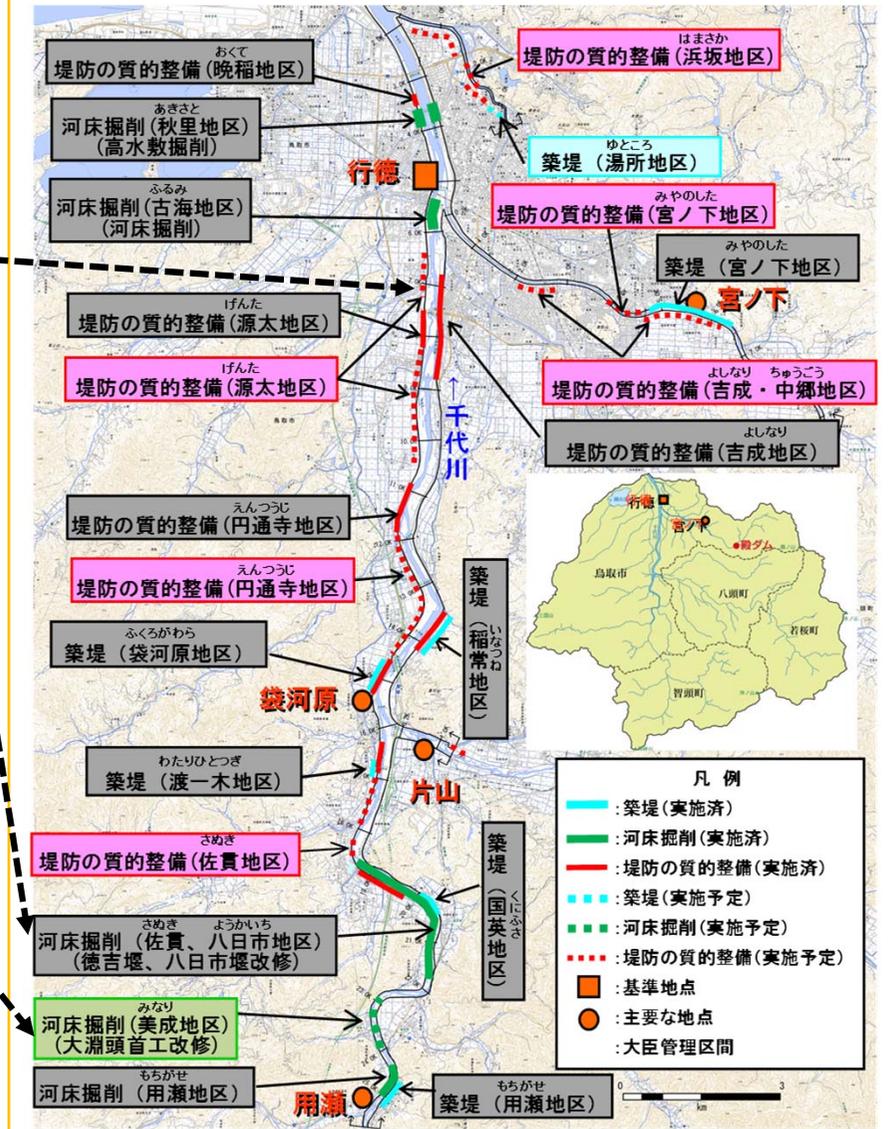
## 河床掘削、八日市堰改修(佐貫、八日市地区)



## 河床掘削、大淵頭首工改修(美成地区)



## 河川整備計画実施メニューの進捗状況



- 「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」（令和元年12月12日既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議決定）に基づき、河川について水害の被害軽減等が図られるよう、千代川においては、河川管理者、ダム管理者及び関係利水者5機関が「千代川水系治水協定（令和2年5月29日締結）」を締結。
- この協定により、河川管理者である国土交通省並びにダム管理者及び関係利水者において、千代川水系で運用されている5つのダムの洪水調節機能強化を推進する。

ダム	目的	①洪水調節容量(万m <sup>3</sup> )	②洪水調節可能容量(万m <sup>3</sup> )	締結後洪水調節可能容量(万m <sup>3</sup> ) ③=①+②
殿ダム	多目的ダム・治水ダム	550	311	861
佐治川ダム		147.6	22.8	170.4
百谷ダム		20	4.2	24.2
茗荷谷ダム	利水専用ダム	0	27.7	27.7
三滝ダム		0	14.7	14.7
合計	—	717.6(100%)	380.4	1,098.0(153%)

この協定締結の証として、本書5通を作成し、各者は記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

令和2年5月29日

国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所長

鳥取県県土整備部長

鳥取市長

鳥取県企業局長

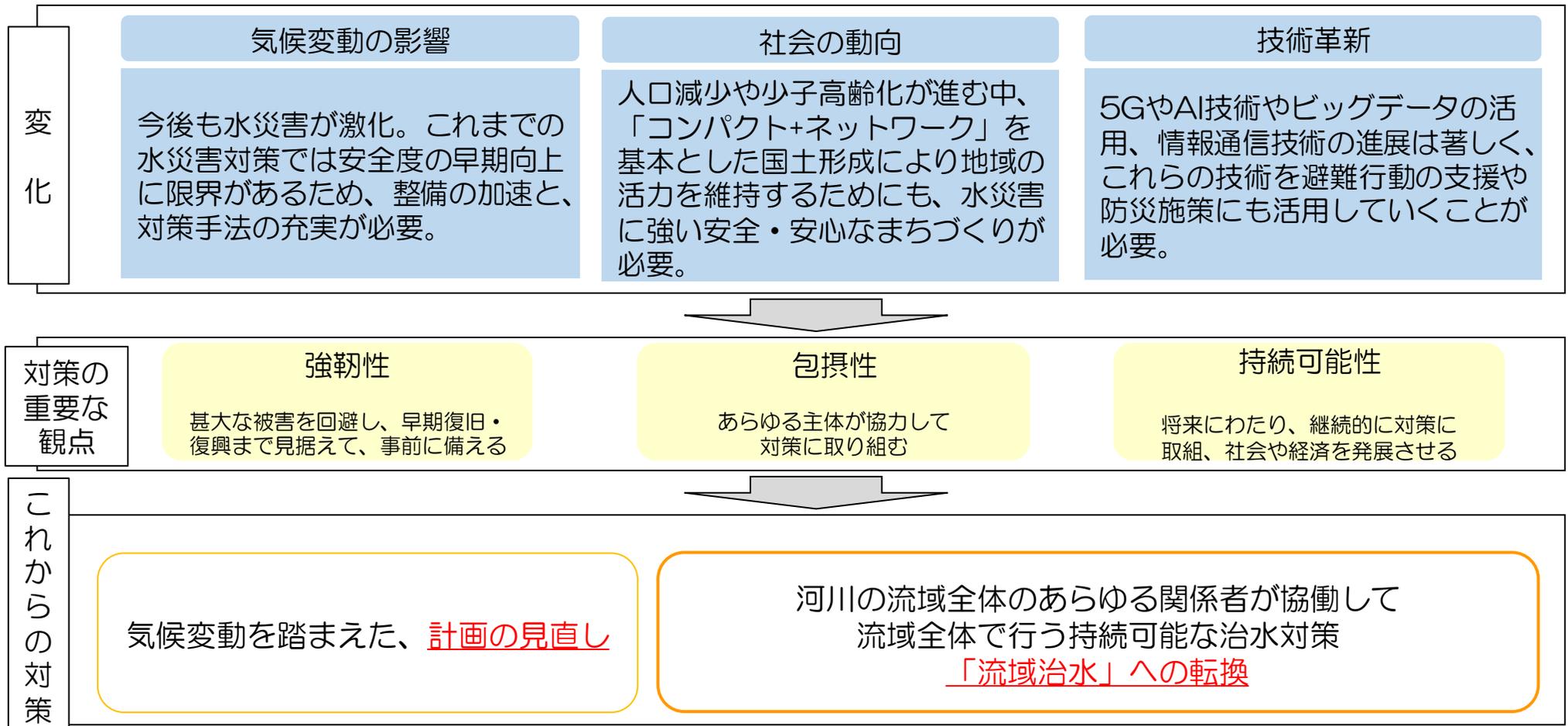
中国電力株式会社 東部水力センター所長



- 近年の水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化を踏まえ、国土交通大臣の諮問機関である社会資本整備審議会に諮問し、令和2年7月に「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について 答申」がとりまとめられたところ。
- 答申では、気候変動の影響や社会の動向、技術革新などの変化を踏まえ、これからの対策としては気候変動を踏まえた治水計画の見直しと、流域全体で治水対策を行う「流域治水」への転換が重要であると示されている。

## これまでの対策

施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える、水防災意識社会の再構築  
洪水防御の効果の高いハード対策と命を守るための避難対策とのソフト対策の組合せ



- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減・早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

## ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**雨水貯留機能の拡大** 集水域  
 [国・市、企業、住民]  
 雨水貯留浸透施設の整備、  
 ため池等の治水利用

**流水の貯留** 河川区域  
 [国・県・市・利水者]  
 治水ダム建設・再生、  
 利水ダム等において貯留水を  
 事前に放流し洪水調節に活用  
 [国・県・市]  
 土地利用と一体となった遊水  
 機能の向上

**持続可能な河道の流下能力の維持・向上**  
 [国・県・市]  
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、  
 雨水排水施設等の整備

**氾濫水を減らす**  
 [国・県]  
 「粘り強い堤防」を目指した  
 堤防強化等

## ② 被害対象を減少させるための対策

**リスクの低いエリアへ誘導／**  
**住まい方の工夫** 氾濫域

[国・市、企業、住民]  
 土地利用規制、誘導、移転促進、  
 不動産取引時の水害リスク情報提供、  
 金融による誘導の検討

**浸水範囲を減らす**  
 [国・県・市]  
 二線堤の整備、  
 自然堤防の保全



## ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

**土地のリスク情報の充実** 氾濫域  
 [国・県]  
 水害リスク情報の空白地帯解消、  
 多段型水害リスク情報を発信

**避難体制を強化する**  
 [国・県・市]  
 長期予測の技術開発、  
 リアルタイム浸水・決壊把握

**経済被害の最小化**  
 [企業、住民]  
 工場や建築物の浸水対策、  
 BCPの策定

**住まい方の工夫**  
 [企業、住民]  
 不動産取引時の水害リスク情報  
 提供、金融商品を通じた浸水対  
 策の促進

**被災自治体の支援体制充実**  
 [国・企業]  
 官民連携によるTEC-FORCEの  
 体制強化

**氾濫水を早く排除する**  
 [国・県・市等]  
 排水門等の整備、排水強化



## 千代川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～流域の人々とともに因幡の治水対策を推進～

### ●グリーンインフラの取り組み 『多様な動植物の生息・生育環境の保全・再生と水質改善』

- 千代川は、その源を沖ノ山に発し、上流部では中生代ジュラ紀の三郡変成岩（千枚岩）が形成され、下流部では縄文海進（じょうもんかいしん）により出現した古鳥取湾が千代川から運ばれる土砂により埋められ形成された鳥取平野が広がっており、河口部は渡り鳥の飛来地になっているほか、本川、支川においても豊かで多様な動植物が息つき良好な景観が形成されている等、次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。
- 千代川水系においては、河道掘削、堰改築等にあたり、動植物の生息・生育環境の保全・再生を目標として、今後概ね20年間で魚類等生物移動の縦断的連続性を確保、また清らかな水の流れを再生するための袋川の水質改善を検討するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



- 治水対策における多自然川づくり
    - ・生物の多様な生息環境の保全・再生
    - ・瀬、淵、礫河原などの緩傾斜河岸の保全
    - ・水生生物移動の縦断的連続性の確保
    - ・希少動植物の生息環境の保全
  - 自然環境の保全・復元などの自然再生
    - ・浅場造成・ヨシ原保全
  - 自然環境が有する多様な機能活用の取組
    - ・環境学習への場の提供
    - ・自然とのふれあい、地域行事やレクリエーション活動等の場の確保
- 【全域に係る取組】
- ・下水道等関連事業、関係機関、及び地域住民と連携を図り、良好な水質を保全
  - ・地域ニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

- 凡例
- 堤防整備
  - - - 堤防強化(浸透対策等)
  - ⋯ 河道掘削、樹木伐採等
  - ⇄ 大臣管理区間
  - 千代川流域界
- :治水メニュー  
  :グリーンインフラ関連メニュー

- (流域全体) 間伐等による森林整備 農地の保全 (鳥取県、森林整備センター、鳥取森林管理署)
- (流域全体) 河道掘削 (国・鳥取県)
- (流域全体) 治山・砂防施設の整備 (鳥取県)
- 雨水の貯留・浸透による防災・減災 (県)
- 良好な景観、地域社会形成 (県)
- 生物の多様な生息環境の保全・再生 (国・県)
- 環境学習への場の提供 等 (国)
- 生物・景観に配慮した施設 (県)



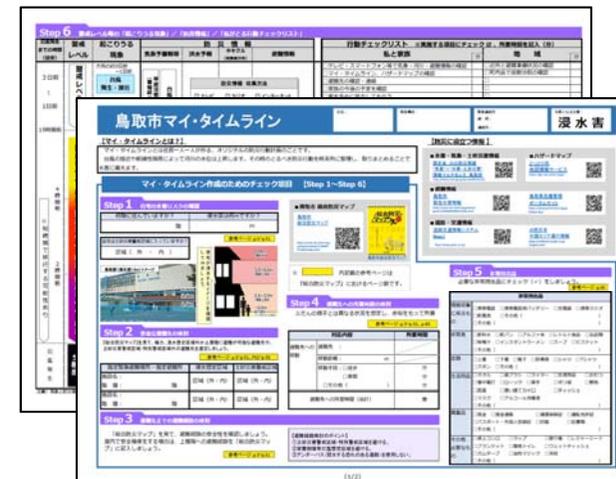
- 鳥取河川事務所では、地域住民自身が作成するマイ・タイムラインの作成支援・普及を行っている。
- 令和3年度は、大水害に備えて一人ひとりが自らの命を守る行動を考えて、避難行動を自発的に行うことを目指し、大正地区において、「マイ・タイムライン」作成の取組をワークショップ形式にて開催。

## ◆マイ・タイムラインワークショップ（令和3年度）

- 開催日：令和3年11月14日
- 開催場所：鳥取市立大正小学校体育館
- 参加者：約42名



鳥取市総合防災マップ



マイ・タイムライン

○『鳥取市総合防災マップ』で危険箇所や避難場所を確認し、住民同士で意見交換を行いながら住民一人一人がとるべき避難行動計画（マイ・タイムライン）を作成しました。



鳥取河川事務所による水害リスク  
についての説明



ワークショップ説明の様子



ワークショップの様子